

■米国：オバマ大統領、自動車の温室効果ガス（GHG）排出規制を支持

オバマ大統領は 2009 年 1 月 26 日、連邦環境保護局（EPA）に対し、カリフォルニア州が提出していた自動車の GHG 排出規制の導入許可申請を再検討するよう命じたと発表した。同州政府は 2009 年以降に販売される新車からの GHG 排出量を 2016 年までに 30%削減するとした厳しい排出規制の導入を決定しており、2005 年 12 月に EPA に規制導入の許可申請を行っていた。しかし、前ブッシュ政権は 2007 年 12 月、自動車燃費基準の強化を盛り込んだ連邦エネルギー法が成立したこともあり、州単位の排出規制は混乱を招きかねないとして、カリフォルニア州の申請を却下した。自動車の排気ガス規制は、連邦大気浄化法に基づいて行われているが、カリフォルニア州のみについては、その歴史的背景から、EPA の承認が得られれば独自に規制を行うことが認められている。オバマ政権下で EPA 長官に新任したジャクソン氏は、「（同州の申請を）積極的に再検討する」とコメントしており、一転して申請が認められる可能性が高まった。カリフォルニア州と同様な規制の導入を決定している州は 14 州あり、この他にも 3 州が導入の方針を示している。カリフォルニア州で導入許可が下りれば、他州でも同様の排気ガス規制を適用することが認められる。